



金沢市名誉市民

故 江川 昇氏お別れの式

式 次 第

- 1 開 式 の 辞
- 1 花 輪 奉 呈
- 1 黙 と う
- 1 経 歴 紹 介
- 1 お別れの言葉
金 沢 市 長 山 野 之 義
金沢市議会議長 苗代 明彦
- 1 献 花
- 1 合 唱 合唱曲「金沢市歌」「あざみの歌」
- 1 謝 辞
- 1 閉 式 の 辞

日 時 平成25年2月26日（火）午後2時

会 場 金沢市文化ホール 大ホール

江川 昇 氏

生年月日 明治42年 3月25日

略 歴



明治42年	金沢市に生まれる
大正15年	石川県立農学校卒業
大正15年	石川県庁に奉職
昭和26年 ～38年	金沢商工会議所常務理事 同専務理事
昭和38年 ～53年	金沢市助役
昭和53年 ～平成2年	金沢市長
平成2年	勲三等瑞宝章受章
平成4年	金沢市名誉市民の称号を贈られる

事 績

卓越した指導力、その豊富な経験・識見や誠実な人柄がかわれ、金沢市助役として昭和38年から昭和53年まで4期15年余勤められた。その後、昭和53年12月、金沢市政初の全政党推薦による市長に無投票当選以来、平成2年12月9日の任期満了まで3期12年間、「公正と市民本位」、「尽くして求めず」を政治信条として市政の推進にあたられた。その間、あらゆる経済活動を促す一方、文化伝統の継承発展に努め、新しい世紀に備えた活力ある個性豊かなまちづくりを推進し、産業の振興、教育、文化、福祉の向上をはじめとした地方自治の振興と国際交流の推進に多大な貢献をされた。こうした自治功勞により、平成2年に勲三等瑞宝章を受章された。また、同年、金沢の文化発展に対する功勞により北国文化賞を受賞された。

市長在任中には、「金沢市民憲章」の制定、文化芸術の拠点及び多目的コンベンション施設としての金沢市文化ホールの建設や個性あふれる住みよいまちづくりとしての伝統環境保全事業が国の内外から高い評価を得るなど、全国の範となる行政を展開した。昭和59年には、新しい世紀にあるべき都市像を基本理念とした「21世紀“金沢の未来像”」を策定するとともに、来るべき高齢化社会を踏まえた福祉行政の着実な一歩をしるすなど、次世紀を見据えた施策を展開した。また、全国に類を見ない卯辰山工芸工房の建設、公設花き地方卸売市場の開設、金沢の誇るべき環境を守り育てる布石として都市景観条例の制定、香林坊地区の再開発、鉄道高架化の完成、駅西副都心形成を軌道に乗せるなど、枚挙のいとまがない程である。教育と福祉は後退させないとの信念から、教育環境の整備・充実に力を注ぐとともに福祉サービス公社を設立発足させるなど福祉施策や施設充実に十分意を注がれた。このように、21世紀へ向かって世界の中の金沢をめざし「国際的文化産業都市金沢」の発展の基礎を築くなど、多岐に亘る分野で優れた行政手腕を発揮する等、市政に尽くされた功績は誠に顕著であり大きなものがある。

金沢市歌

作詞 鴻巣 盛広
作曲 金沢市唱歌研究会

ふた なが とおなが
二つの流れ遠長く

れいたくす わ とこほ
霊沢澄んで涌く所

いらか かず ひ そ
蔓の数の日に添ひて

おのずか だいとかい
自らなる大都会

なが つ けんろく
眺め尽きせぬ兼六の

その ひと かげた
園には人の影絶えず

いちびとわざ
市人業をいそしめば

ちまた せいきあふ
巷に生氣溢れたり

ぶんか うしおはや
文化の潮早けれど

ち りひと わか
地の利人の和欠くるなく

ここほくりく ちゆうしん
此処北陸の中心と

とわ さか かなざわし
永久に栄えん金沢市

【主なことばの意味】

二つの流れ・・・犀川と浅野川の流れ

霊沢・・・兼六園にある湧き水「金城霊沢」

蔓・・・屋根瓦のことで、当時は屋根は板ぶきが多かった

自ら・・・もとからもっている 自然に

兼六の園・・・兼六園のこと(宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望の特色を兼ね備えている)

市人・・・市で物を売る人から広く市民

業・・・仕事

巷・・・まちの中

文化の潮・・・文化の流れ

地の利・・・その土地のもっている特徴

あざみ之歌

作詞 横井 弘
作曲 八洲 秀章

山には山の 愁いあり

海には海の 悲しみや

ましてこころの 花園に

咲きしあざみの花ならば

高嶺の百合の それよりも

秘めたる夢を ひとすじに

くれない燃ゆる その姿

あざみに深き わが想い

いとしき花よ 汝はあざみ

こころの花よ 汝はあざみ

さだめの径は 涯てなくも

かおれよせめて わが胸に

ああ ああ



金 沢 市 民 憲 章

金沢を愛するわたくしたちは、兼六園の四季のいろどり、犀川
・浅野川の清い流れ、山や街の豊かな緑、かおり高い伝統文化を
誇りとし、希望と活力にみちたはたらく基盤と、創造性あふれる
教育・文化の華さくまちづくりにつとめます。

1 ひ ら こ う 世界と未来に 心 の 窓 を

1 め ざ そ う いきいきと明るい 暮らしの創造を

1 ま も ろ う 美しい心と ふるさとの自然を

1 つ な ご う みんなの力で まちづくりの手を

1 き ず こ う 個性ゆたかな あすの金沢を

(昭和54年5月10日 議決)